

第34回 洛和会ヘルスケア学会
2024年10月20日(日) 口演TQM発表

朝礼という名称から 院長ミーティングへと 改善した効果

丸太町リハビリテーションクリニック
大西 拓也

問題点・背景

- 内容に関わらず朝礼を習慣的に実施
- 8時25分から開始することによるサービス残業
※月換算約1時間40分
- 院長との情報共有および確認・相談ができる場が必要
(朝礼の現状調査より)

目標

- 朝礼という言葉の廃止
- 習慣化の撤廃、及び必要なことを話し合う機会の提供
- チームスの活用

改善策

変更点	旧体制	新体制
名称	朝礼	院長ミーティング
開始時間（日勤）	8：25	8：30
全体集合	あり	なし
院長との 患者情報共有※	あり （朝礼終了後）	あり
全体への 周知・連絡事項	朝礼時に伝達	Teams共有

※患者情報の共有や現場運営の改善策などを相談

結果・アウトカム

（まだ成果がでていない場合は、期待するアウトカム）

- 必要のない日にも朝礼を実施するといった不要な業務を解消した
- 情報共有していた内容をチームスで行うことで、後から確認することができ、また共有される内容自体が減り、必要性の取捨選択がされた
- ただし、診察が8時30分からであることを考慮し、最大でも8時40分までに終わるというルールを設定
- 始業時間が正常化した

考察・まとめ

- 患者情報など、臨床における必要事項や現場運営における業務改善など院長への相談事を話す機会が増え、患者の為に使う時間を少しでも増やす機会となったと考えられる
- 一方で、診察開始が遅れて患者をお待たせすることや、チームスの情報共有が確認されずに見逃される、うまく伝わらないといった問題もある為、今後も状況を見ながら方法についてより良くなるよう検討していく必要があると考えられる